

鳥取県立美術館整備基本構想について

平成 29 年 1 月 17 日
博 物 館

1 経緯

1 1 月 4 日：第 10 回鳥取県美術館整備基本構想検討委員会に美術館の整備検討に関する県民意識調査の結果を報告し、同委員会はそれを踏まえて基本構想の中間報告を決定

《前回の県民意識調査結果》

- | |
|---|
| <p>① 基本構想で整理された美術館の目的や機能についての考え方は、
→適切である（66%）、おおむね適切だが更に留意すべき点がある（7%）、適切でない（2%）</p> <p>② 基本構想で整理された美術館の施設設備や事業活動についての考え方は、
→適切である（51%）、おおむね適切だが更に留意すべき点がある（13%）、適切でない（5%）</p> <p>③ そのような美術館の必要性については、
→必要であり整備を進めていくべき（45%）、どちらかと言えば整備を進めていくべき（31%）、どちらかと言えば整備を進めるべきではない（3%）、必要がなく整備を進めるべきではない（3%）</p> |
|---|

1 1 月 7 日：検討委員会林田英樹会長が山本教育長に中間報告を提出

1 1 月 8 日：臨時教育委員会を開催し、県教育委員会としての基本構想の中間とりまとめを決定

1 1 月 9 日：山本教育長が平井知事に中間とりまとめを報告

2 中間とりまとめの概要

・建設場所以外の間とりまとめは次のとおりだが、最終取りまとめでは、「他施設との連携（県立美術館としてのセンター機能）」等についても盛り込むこととしている。

1 必要性

- ①鳥取県の美術の継承と発信
- ②内外の美術との接触と交流
- ③県民の創造性と鳥取県の魅力の向上

2 基本的な在り方（イメージ）

- ①「とっとりのアート」の魅力を知り、大切に守り、誇りを持って県内、県外そして世界へと発信するとともに、より多くの人々に内外の多彩で優れたアートに触れる機会を提供する。
- ②人々が思い思いに楽しみと夢と喜びを見出すことができ、次代を担う子どもたちが優れたアートと出会い、想像力や創造性を育む場所となる。
- ③地域に根差し県民のアイデアと愛情で運営される、「私たちの県民立美術館」となる。
- ④アートによって街を目覚めさせて文化的感性の高い賑わいのある地域づくりに貢献する。
- ⑤鳥取県創生の拠点となるよう、大胆かつ柔軟に新たな可能性を求め、次代に向けて新たな地平を拓くことを目指す。

3 施設規模と建築工事費

- ・延べ床面積：12千㎡程度（9千～1万㎡程度への圧縮も想定）
（収集保管；2,280㎡、展示2,450㎡、教育普及550㎡、地域・県民連携1,000㎡など）
- ・建築工事費概算額：約70～100億円程度（施設規模を圧縮すれば60～90億円）

4. 建設場所

鳥取市役所跡地、鳥取砂丘西側一帯、倉吉市営ラグビー場、旧鳥取県運転免許試験場跡地の4箇所に絞り込み。候補地に関する県民意識調査の結果等を踏まえ、最終とりまとめにおいて建設場所を選定する。

5. 事業計画

- ・収集保管：本県にゆかりのある美術作品の収集保管など
- ・常設展示：収蔵作品のジャンル別展示や野外等のオープンスペースでの展示
- ・企画展示：本県ゆかりの作家の展覧会に加え、国内外の著名作家の展覧会の充実や「まんが王国」である本県の特徴を活かしてポップカルチャーに関する展覧会を開催
- ・教育普及：県内の小学3年生全てが年に1回は美術館に来館する取組やワークショップの充実、ファミリー向け・子ども向けのプログラム等実施
- ・地域・県民連携：県民の創作発表機会の提供やアーティスト・イン・レジデンスの取組のほか、ボランティアスタッフの活動の拠点化等を進める

6. 利用見込み

- ・年間利用者約20万人(多少抑制的に見込めば10万人)
←H26実績(県博の美術部門のみ)；約6万人

7. 運営費

- ・約3.9億円(施設規模を圧縮し、それに応じて利用も抑制的に見込めば3.2億円)
←H26実績(県博の美術部門のみ)；約2.4億円

8. 整備運営の手法

- ・地方独立行政法人→市町村と県が共同で一括導入することについて検討を進めるのは当面難しい。(今後、可能性が生じれば個別に検討。)
- ・指定管理者→管理部門の業務のみを指定管理者に行わせる(学芸部門は県直営とする)方向で検討を進めるものとする。
- ・PFI→一定のメリットが見込めるので、より精緻な評価を行い実現可能性等について更に検討する。

3. 美術館の建設場所に関する県民意識調査

- (1) 対象者 市町村住民基本台帳から無作為で抽出した16歳以上の県民5,000人
- (2) 調査時期 平成29年1月6日から1月27日(金)まで

4. 基本構想の最終とりまとめ

鳥取県美術館整備基本構想検討委員会では、建設場所に関する県民意識調査結果を踏まえて2月上旬に第12回目の委員会を開催され、建設場所を選定するとともに、鳥取県美術館整備基本構想の最終報告をとりまとめられる予定。その後、県教育委員会としての基本構想の最終とりまとめを決定する。

5. 今後のスケジュール(案)

- 平成29年度 : 基本計画策定・PFI実現可能性調査
- 平成30年度 : PFI事業者選定
- 平成31～32年度 : 基本設計・実施設計
- 平成33～34年度 : 建設工事
- 平成35年度 : 乾燥期間
- 平成36年度(2024) : 開館